

佛念大



No.72

発行 融通念佛宗
総本山大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜

開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌 大法要特集

開宗九百年記念・大通上人 三百回御遠忌によせて

融通念佛宗管長

倍巖良舜

融通念佛宗開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌という難遭遇の大法要にお会いすることができ、皆様と共に慶び申し上げます。

融通念佛宗は平安時代の末頃、良忍上人（聖應大師）によって開かれた伝統仏教であり、日本で初めて誕生した国産仏教の宗派であります。良忍上人は応徳元年（一〇八四）十二歳で比叡山延暦寺に入り勉学修行され、忽ち頭角を現し二十一歳で講主

をつとめられますが、当時の世相はまさに末法で、政治的権力も貴族より武士に移りつつありました。比叡山も真面目に勉学修行する者が減少し、僧兵や僧徒、衆徒と呼ばれる武力を持つた集団が横行するようになり、他の大社寺も武力を持ち、世の中は混乱濁世に陥っていました。良忍上人は道を求めて二十三歳の時、比叡山を下り大原に移り修行を続けられます。良忍上人は天性、音楽才能に勝れ「声

明」という仏教音楽の大家としても有名であり、「声明業中興の祖」と敬称されています。天仁二年（一一〇九）大原に來迎院を建立され、念仏行者として修行に励まれます。

（二六八九）大通上人は大念佛寺第四十六世となり、当時、宗内がいろいろと混乱していたのを治め、宗門再興に尽力されることとなります。すでに四十五世 良観上人を助けて宗門再興の願書をもって江戸に下り、社奉行に差し出すなど、幕府の裁許を得るために努力されています。当時大阪から江戸へ行くことは旅程二十日程要する難行でした。

永久五年（一一一七）五月十五日、阿弥陀如来より「一人一切人 一切人一人 一行一切行 一切行一行 是名他力往生 十界一念 融通念仏 億百万遍 功德圓滿」の御文を授与され、更に「十一尊天得如来」の御姿を授与されたのであります。良忍上人はこの直授を多くの人々に、特に庶民の間に布演すべく、大原を出て京から大阪の地で融通念仏をひろめられ、平野の地が念仏弘通相應の地という聖徳太子の夢告を得て大念佛寺を開創されたのであります。

（一）京都に円満寺を建立し、盛んに融通念仏を勧進されました。また教学面では「融通圓門章」「融通念佛信解章」等の著述、（宝永六年、一七〇九）南都東大寺の大仏殿落慶法要に請ぜられ、導師となり親修されました。大通上人の宗内外に於ける功労は誠に偉大であり、本宗今日あるは全く大通上人のおかげであります。三百回御遠忌にあたり報恩謝徳の誠を捧げたいものであります。



京都大原 音無しの滝

子 元禄二年

（一）京都に円満寺を建立し、盛んに融通念仏を勧進されました。また教学面では「融通圓門章」「融通念佛信解章」等の著述、（宝永六年、一七〇九）南都東大寺の大仏殿落慶法要に請ぜられ、導師となり親修されました。大通上人の宗内外に於ける功労は誠に偉大であり、本宗今日あるは全く大通上人のおかげであります。三百回御遠忌にあたり報恩謝徳の誠を捧げたいものであります。

御遠忌法要標語
念仏は暗闇を照らす光明である

念仏は暗闇を照らす光明である

融通念佛宗務総長 吉村 暲 英

煩惱の闇路

人におしなべて迷いがつきものです。迷いといえ、仏教では煩惱という語がよく知られています。煩惱とは私たちの身体や心を悩ませ、かき乱し、煩らわせ、感わし汚す精神作用のことで、一口でいえば底なしの迷いの闇のことです。

古来、煩惱の同意語として、妄念(迷いの心、迷妄の執念)、三毒(貪欲、むさぼり)、瞋(腹立ち、怒り)痴(暗い心)を三毒または三惑といつて、根本煩惱ともいわれています。それに加えて慢(おごり、たかぶり)、疑、邪見(誤った考え)、辺見(かたよった考え)などが、四諦と名づける四種の真理すなわちこの世は苦であるといふことの真理と、その原因である執着心を見極める真理、それを減する真理と道筋への真理、この四つの真理を触む煩惱に八十八を数え(八十八使)、さらに十随眠、十纏という煩惱を加えて百八とします。これは仏教の根本聖典の一つである俱舍論の説ですが、百八煩惱については、他の説もあります。

眼耳鼻舌身意の六根が、その対境としての色声香味触法を感じる時、好(このむ)、悪(にくむ)、平(非好非悪のことで、好まず憎まずのどちらでもない無關心なこと)の三種の思いを起こすので十八となる。この十八にそれ

先の例でいえば、六根のはたらきは人間が生きていく上でなくてはならない大切なものですが、またそれによって沢山の煩惱を作り出していることも事実です。眼に見えるもの、耳にきこえる音声、舌で感じる味覚、身体に感じる触感も、あらゆる現象を受けとめる心のはたらきも、人により、また

典の二つである俱舍論の説ですが、百八煩惱については、他の説もあります。眼耳鼻舌身意の六根が、その対境としての色声香味触法を感じる時、好(このむ)、悪(にくむ)、平(非好非悪のことで、好まず憎まずのどちらでもない無關心なこと)の三種の思いを起こすので十八となる。この十八にそれ



大通上人直筆名号

けです。

その時によりまちまちです。それらはすべて人間の煩惱となります。たとえば空腹のときはおいしい、おいしいと食した物も、満腹時には厭ましいものになります。好きも嫌いもすべて煩惱です。このように煩惱いっばいの世界を迷いの世界といえます。それは暗闇の世界でもあります。いうならば私たちは闇路をさまよう凡夫であります。

それ染(けがれた心)と浄(清い心)の二つがあるから三十六となる。これが過去、現在、未来の三世にわたって活動するから百八となるというわけです。その他にも別の数えかたもありますが、要するにそれだけ人間の迷いが多岐にわたって膨大であることを表しているのです。仏さまの教えが無量であること

人間を表現するのに、八万四千の法門といいますが、それと同じように、人間の欲や迷いなどが強大であることを、八万四千の煩惱といえます。とても百八どころではないわ

むことはできません。もちろん何も見えません。その中ではマツチ一本の明かりでも、この上なく尊いものと感ずることがあります。いわんや一条の確かな光明は、どんなにかな有難いことでしょうか。念仏はわが足許をしっかりと照らし、心の闇路に希望と勇氣と喜びを与えてくれるものであります。

その念仏を持ちつづけて放さないことを、阿彌陀経には「執持名号」と説かれています。喜びにつけ悲しみにつけ、いつも南無阿彌陀仏と一緒にあるという生き方をいうのです。ところで古えの念仏者は、前述の闇路と光明との関係について興味ある話を残しています。

私たちが物が見えるのは、己れの眼のおかげと感じます。あるいは視力があるからと思うでしょう。眼すなわち視力によって物を見ることができたら、夜でも見えるはずであります。ところが夜の暗闇では何も見えないのです。頼りにしている眼がはたらかないのです。ここに己れの眼の限界があることに気が付きます。つまり自分の力の弱さ、ちつぽな自分の存在を感じないわけにはいきません。念仏門ではこれを自力の脆さと受け取ります。すなわち自己の力を過信していても、よくよく考え



大通上人遺像

てみればそれがいかに脆弱であるかがわかります。物ひとつ見ることができないのも、明るさ、光明のおかげと受け取ったとき、自己をとりまく大きな世界の存在に気付くので、その光明が私たちの眼のはたらきを蘇らせてくれるのです。

この大きな世界のはたらきを「仏の力」といただいたとき、暗闇の中の光は仏の光明そのものとなります。その仏の光明に浴することができるとは、念仏衆生すなわち念仏を喜び信じて称える人であり、まずこの口に念仏を称える人になることが第一であります。それゆえ本宗では「日課念仏」といつて、一日百遍の念仏を誓って称えることと、「早旦の念仏」といつて、朝、洗面漱口のあと西方に向かい十遍の念仏を称えることが大切な行となつています。しかもこれは尽未来際といつて、後の世を経ても未来永劫に称え続けることが説かれています。



決定往生といえます。

縁あつて開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌の佳節にめぐり会った私たちは、今こそ声高らかに念仏唱和の鉦を力強く打鳴らし、わが足許を、さらには私たちの周囲を、光り輝く樂土にしたいものであります。念仏は暗闇を照らす光明である。私たちが一人ひとりが光明を点じる人であることを心に銘記して、御遠忌の報恩行にいそしもうではありませんか。

光の世界へ

暗闇にこそ光は尊いといわれますが、暗闇の中では一歩も進

万部おねり



「万部おねり」のいわれ
 平野の「万部」あるいは「万部おねり」として親しまれているこの大法会は、正式には「阿弥陀経万部誦誦・二十五菩薩聖聚来迎会」といいます。

八世紀頃(平安時代)から、人々の間に極楽浄土に往生したいという願望が広まり、来迎図が盛んに描かれるようになり、その欲求はさらに菩薩の面や衣装を身につけ、往生の実験を試みるころまで発展していきました。迎講・往生講などといわれるものです。これを「聖聚来迎会」といいます。

大念佛寺における「聖聚来迎会」の起源は、第七世法明上人(一二七九～一三四九)が臨終の行儀をまのあたり拝したいと考え、菩薩の面や衣装を身につけ、自ら行者となって来迎の儀式を執り行ったことに始まります。

近世に入り明和六年(一七六九)第四十九世堯海上人のとき、阿弥陀経一万部を誦誦して檀信徒と有縁無縁諸霊の追善を祈って万部会が創始されました。

この二つの法会が合体して今日に及んでいるのが「万部おねり」の儀式です。

二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
无边身菩薩	大威徳王菩薩	白象王菩薩	大自在王菩薩	三昧王菩薩	定自在王菩薩	月光王菩薩	日照王菩薩	衆宝王菩薩	陀羅尼菩薩	光明王菩薩	山海慧菩薩	金剛蔵菩薩	法自在菩薩	寶蔵菩薩	徳蔵菩薩	虚空蔵菩薩	華嚴王菩薩	獅子吼菩薩	金蔵菩薩	普賢菩薩	薬上菩薩	薬王菩薩	勢至菩薩	観世音菩薩
香炉	供華	寶幢	華幢	華鬘	太鼓	振鼓	羯鼓	銅鑼	鳳簫	琵琶	箏篋	欽	箏篋	横笛	笙	腰鼓	鉦鼓	拍子板	瑟	幡蓋	玉幡	幡幡	金剛合掌	紫蓮台

一年間の闘病生活を経て妻が亡くなったのは平成二十五年の四月でした。あとかたづけを終えて、ほっとしていた時に、大念佛寺の菩薩役の方から「万部おねり」に使用される菩薩面の新調のお話がありました。

私の師匠である高野唯閑先生が三十数年前に十五面を制作され、今回あと十面を私にまかせて頂く事となりました。棺材の調達や桐箱への納め具合など、普段にはない事なので、慎重に準備をしていきました。大念佛寺に伝わる江戸時代の菩薩面二十五面も拝見する機会を得て、身の引き締まる思いでした。その年の十月には京都の



菩薩面の制作にあたって

寺井一祐

「龍谷ミュージアム」で開催されていた「極楽へのいざない」(練り供養をめぐる美術)の展示を拝見し、阿弥陀如来とその一行のお迎えを待つ臨終観について、絵画や彫刻の中にそのありがたみを感じることができました。



菩薩面新調される!!

菩薩役長 本寛寺 大東 良弘

大通上人の元禄時代より、練り供養で使用されており、菩薩の面、持物が開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌大法会に合わせて新調、修復されました。

菩薩面は元禄時代の面の破損を避けるために良忍上人八百五十回御遠忌法要(昭和五十六年)の時に十五面が、当時日本最高の能面師、高野唯閑氏によって新たに制作されました。今回高野氏の弟子にあたる能面師寺井一祐氏に残り十面の制作をお願いし、二十五面完成の運びとなりました。

しかし、やはり「表情」がいちばん難しく、一気には進められず、迷いがおきて度々立ち止まってしまったのですが、心の亡き妻を思い出し、気を落ち着けて仕事を続け、やっと完成の運びとなりました。

これからも末永く「おねり」に加わり、皆様に極楽の雰囲気を感じて頂けるよう祈っております。

翌年の五月には、実際に「万部おねり」を拝見し、「来迎会」を目の当りにできたことに感動しました。制作にあたっては、菩薩役の方々の体格が大きくなっている為、面の寸法の変更や、使用しやすくする為に目の穴や口の開け方等、工夫したところもありました。

となりました。

菩薩様の持物は、紫蓮台(観世音菩薩)をはじめ幡幡(薬王菩薩)、毘(金蔵菩薩)、拍子板(獅子吼菩薩)、鉦鼓(華嚴王菩薩)、腰鼓(虚空蔵菩薩)、箏篋(山海慧菩薩)、羯鼓(日照王菩薩)、振鼓(月光王菩薩)、太鼓(定自在王菩薩)、華鬘(三昧王菩薩)、華幢(大自在王菩薩)、香炉(无边身菩薩)が修復され、また有志の方々により、笙(徳蔵菩薩)、箏篋(法自在菩薩)、琵琶(光明王菩薩)、横笛(寶蔵菩薩)などが寄贈されました。本年は大法会にあたり二十五菩薩と供に、特別に地蔵菩薩が練り供養に出られます。新調されました菩薩面、修復されました持物をご覧頂きますとともに極楽浄土の世界を体験して下さい。

御遠忌によせて

宗議会議長

大阪府堺市美原区北余部
西迎寺 肥田憲仁

開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌を迎えるにあたり、宗議会議長、副議長として参加させていただきました。奉修局の記念事業部では、建設委員として、延喜殿の建設を進めさせていただきました。完成を見る事が出来ました。去る平成十年の中祖法明上人の御遠忌では、教区長、勸財会計部会の委員として一翼を担いましたが、記念事業には参加出来ず、その時や残した事業を今回、記念事業部会で仕上げる事が出来ました。

建物においては、本宗の今後を担う若い修行僧の夏安居、冬加行の修行部屋、浴室、洗濯室、そして勉学の間としての勸学林を延喜殿一階に、二階には管長猥下が日常生活をしていただく公舎、来賓の方々をお迎えする応接室、客間、管長猥下が檀信徒の方々とお会いになる尚光殿、三階には檀信徒の方々、約五百三十名が一同に食事していただけるホールを造る事が出来ました。これが三階建ての延

評議会議長

奈良県生駒郡平群町福貴
藤田文雄

いよいよ開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌の大法要が厳修される運びとなりました。みなさまには物心両面にわたりお世話になり厚く御礼申し上げます。私達評議会と致しましても、この大法要を立派に成功する為、一致団結して参りました。私も評議会議長として本山より建設委員副委員長、法要委員の要職を命ぜられ、幾度

となく本山へ足を運ばさせて頂きました。平成二十一年の評議会に於いて、当局より事業の概要について説明がありました。その内容は開宗された理念を檀信徒はもとより多くの人々に理解して頂く教育活動の拡充徹底と、多目的建物の新設でした。特に新延喜殿は檀信徒の方々が参詣頂いた際の休憩所、僧侶の研修道場等、多くの

諸講元代表

奈良県大和郡山市今国府町
大和禅門講講元 大倉基宥

「カン！カン！カン！カン！」巷に高らかに鐘の音がひびきわたります。「アッによらいさんや」と、各地域で親しまれ、大切にお迎えて下さっています。

他宗にはみられない融通念佛宗固有の取組みです。総本山大念佛寺から御本尊十一尊天得如来のお絵像が納められた箱を奉持して、お檀家一戸一戸御回在して頂く、大切な法要です。

人々が参集されることを目的としています。その為の特別宗費、一般寄付の勸募、幾多の努力により、初期の目的を達成することが出来、関係各位の人々に感謝の気持で一杯です。

私事ですが、我が家に昔から伝わる大通上人がお寄り頂いた折の木札があり、母からもよく聞かされておりました。表には融通総本山の焼印と再興大通上人附属、八尾別時良明寺と記され、裏面には、竹と雀をあしらった家紋の焼印、大和国平群郡福貴村藤田又左エ門と記されており、私自身大通上人

へき講として、別時講・豊講・禅門講・灯明講・禅門尼講等があります。私ども大和禅門講は「まなぶ法要」のお念仏おねりと、御回在の供奉員として、ご奉仕させて頂いております。

【大念佛宗踊躍念佛由来記】には、「大通上人宗門再興の時分に在家入道の輩、むらがり出て踊躍念佛を我もわれもと、けちろんせしとなん、且つ両祖師忌の節踊躍念佛くわえられけると伝ふ」とあります。この講が大和禅門講のはじまりであるそうです。

御回在の供奉については、いつ頃かわかりませんが、大法要に踊



り念佛を奉納している講衆が、大通上人への帰依が深かったことから、布教の根幹である御回在に供奉するようになったようです。

大通上人三百回御遠忌に際し、上人なしに大和禅門講の存在はないことを、あらためて認識しているところです。近年は講員各位の協力のもとに、供奉員は全て禅門講員となり万部法要お練りへの参加者も増えております。

総本山をはじめ各寺院御住職にご指導を賜わり厚くお礼申し上げます。



御遠忌奉修局 記念事業部 部長
 大阪市住吉区住吉
 宝泉寺 白井忠雄

我が融通念佛宗は今から九百年前の平安時代後期に聖應大師良忍上人が開かれた日本発祥の一番古い宗派です。それ以前の宗派は中国で生まれ日本に伝来した主に鎮護国家の仏教でした。

良忍上人は念仏三昧中に阿弥陀仏の示現を受け、阿弥陀仏より直々に「一人に唱える念仏は一切の人々に功德を及ぼし、一切の人々の唱える念仏の功德はまた自分に返ってくる」と言う融通念仏を授かりました。

良忍上人は多くの悩める民衆を救うべく日本各地を巡杖され融通念仏を弘められました。以来良忍上人のおしえは連綿として今に伝わっていますが、九百年の間には色々な事情で宗勢が衰えた時期がありました。

有りました。この時期に我が宗の再興に一生を捧げられたのが大通上人です。大通上人がおられなければ今の融通念佛宗は無かったと言っても過言ではありません。本年は良忍上人が開宗されて九百年と大通上人の三百年御遠忌にあたります。

この御遠忌にあたり、はからずも私が記念事業部の部長として大役を仰せつかり、記念事業として「延喜殿」を建立する運びとなりました。建設には種々の困難を伴いましたが、各寺院のご住職並びに檀信徒の皆様のご協力によりまして昨年一月に立派に竣工致しましたこと心より感謝致しております。

御遠忌奉修局 勸財会計部 部長
 奈良県北葛城郡王寺町久度
 往生寺 福井昭典

ここ数年来、奉修局を中心に準備を進めて参りました「開宗九百年記念・大通上人三百年御遠忌」もいよいよこの五月一日から七日間に亘り勤修されることとなりました。誠に誠にご同慶の至りであります。

大通上人は近世における融通念佛宗の秩序を整え、教義の統一を図り、宗内僧侶や檀信徒への教育や、布教のため大和、河内を度々巡錫されたのみならず、教度に亘り、江戸にまで足をはこび幕府と

さて融通念仏は古くは日本各地で信仰され唱えられていましたが、衰微期を経て大通上人の再興もあり、現在では主に近畿地方に限定されたようになっていきます。

九百年の伝統を有する融通念仏をこの御遠忌を機に日本全国の人々に周知していただき、お念仏の輪を広げてゆくことを宗祖良忍上人、再興大通上人の願いに叶



うことであり、ご恩に報いるためにも私達は融通念仏弘通に精進せねばならないと意を新にしています。

五月一日より七日まで総本山大念佛寺で行われる御遠忌法要には大勢の檀信徒の皆様にご参詣していただき、盛大に法要が勤修され無事に成満することをお祈り申し上げます。

して参りました所、平成十八年、教区の僧侶皆様から教区長にどの推挙を受け、浅学非才を省みず、皆様のお役に立つことになればと、お受けすることにしました。程なく、御遠忌奉修局が組織され、教区長は当て職として、評議員から選ばれた皆様と共に勸財会計部に所属することとなりました。御遠忌奉修のための総事業費は約九億円、これを募ることが勸財会計部の責務です。しかも、この部長の役を私に務めよと推薦されたのであります。考えてみますと、教

育界と宗門人との二足の草鞋を履き続けて来て、宗門には何のご恩返しも出来ていないわが身を省みて、その任には値しないが、皆様のご協力を得てお役に立てればという事で就任させて頂きました。お陰さまで、有縁の皆様が宗門や本山を思う温かい浄財を得て、「新延喜殿」はめでたく完成し、昨年からは既に供用を開始していますが、器の次に問われる内容の充実のためには、あと一息のご助力を必要とします。奉修事業の最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

九百年に亘り法灯を守り継いできた、融通念佛宗のこの会い難き盛儀に皆様こそ御参詣いただき、勝縁をお結びいただきます様ご祈念申し上げます。

法要イベント

御遠忌法要行事紹介

前行と日課念仏

毎日午前九時三十分から本堂にて勤修

在家勤行式

毎日午後二時頃から午後三時頃

(あくまでも目安の時間です)本堂にて勤修

さて、この御遠忌法要でのスロ
ーガンは「念仏は暗闇を照らす光
明である」です。お念仏を称える
とは、「南無阿弥陀仏」と称える
事です。この念仏を称えらるるとあり
がたい功德が生まれます。亡き人
のたましいを安らぎの世界に導く
とともに、諸仏、諸菩薩、諸天善
神の御守護をいただく事ができま
す。

ところで、このありがたいお念
仏を毎日称えていますか。日々の
生活で、用事に追われお念仏を称
える時間が持てない等と、誰も聞
いていないのに自分自身に言い訳
をしていませんか。お念仏を称え
れば、せつかく有り難い功德をい
ただけるのに、もったいないので
はないでしょうか。

しかもおどろいたことに、融通
念仏では、自分の称えた念仏の功
徳と他の人が称えた念仏の功德が
相互に融けあい、一体となってお
おきな功德がいただけます。融通
念仏とは、この上ない有り難いお
念仏なのです。

この御遠忌法要では、皆様と一

緒に本堂にてお念仏を称える機会
を設けております。毎日九時三十
分の前行のあと日課念仏といいま
して、皆様と一緒に念仏を百遍
称えます。又、午後からのおねり
では二十五菩薩が本堂に入られて
からのお勤めで、皆様と一緒にお
勤めをする機会をもうけておりま
す。この有り難いお念仏を、出来
るだけたくさんの皆様と一緒に称
え、たくさんさんの功德をいただきま
しょう。そして世の人々みんなが
平和で笑って暮らせる社会をつく
りましょう。

追記

尚、前述の通りに午後の御渡り
のあと本堂に於いて、一般参詣の
皆様と一緒に勤めを行います。

その際に、このお勤めにご参加し
て頂いた方には、「在家勤行
式略課誦」を記念品として差し上
げますので、奮って本堂にご参列
ください。又、勤行の最後まで本
堂に参詣して頂いた方には記念品
として「散華」も差し上げます。

地域物産展

山門左側(南側)にあるお
茶所にて毎日実施

東日本大震災復興展や大和を中
心にした地域物産展を実施してい
ます。産地直送の珍しい特産品等
が販売されます。

御遠忌 特別展示

山門右側(北側)にある宝
物館にて大通上人展及び写真
展を実施

大通上人ゆかりの品(直筆名号
等)及び戦前までの本宗ゆかりの
風景写真を展示しております。

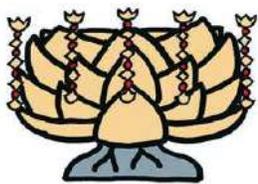
東北復興支援 物産展について

仏教災害支援ネットワーク 石田 歩

この度、融通念佛宗開宗九百年
記念・大通上人三百回御遠忌 大
法要にて、地域の物産展とご一緒
に東北復興支援物産展を開催させ
て頂く事になりました。

「仏教災害支援ネットワーク」
は宗派を超えて、寺院とともに災
害支援を目的として活動しており
ます。現在、「東日本大震災」の
復興支援を行い、そのひとつに宮
城県石巻市と女川町沿岸部の被災
された工場の商品を、寺院行事の
時に販売させて頂いております。

二〇一四年度は、その販売収益と



しかし、復興についてははまだま
だ時間を要します。現地の方から
は、「水産加工会社の再建が遅れ
ているので主力商品の販売が苦し
い」「以前の借入と震災後の補助
金の返済が始まったので今からが
大変」「店舗を開店したが周辺の
家が無くなったので買いに来る人
が少ない」等、厳しい状況を聞か
せて頂いたと同時に「一回限りで
は無く継続して商品を購入しても
らえるのは大変有難い」とのお言
葉も頂戴致しました。今回の御遠
忌法要でも、皆様のご協力を賜れ
ば幸いです。

何卒、宜しくお願い申し上げます。

郷土芸能 奉納

本堂南側 瑞祥閣ベランダ
にて午後十二時四十分頃から
毎日実施

郷土芸能である和太鼓や民謡な
どを披露奉納します。是非、お楽
しみください。



DVD「ほとけのひかり」

もう既にご覧になられた方も多
いと思いますが、DVD「ほとけ
のひかり」は、御遠忌を記念して
制作されました。融通念佛宗の教
えや歴史、大念佛寺の年中行事を
イラストや絵巻等を用いて誰でも
が楽しめるように構成してありま
す。是非、ご家族揃ってご覧くだ
さい。尚、このDVD「ほとけの
ひかり」は、国立図書館や大阪府
立中央図書館、中之島図書館でも
視聴できるようになりました。

ほとけのひかり
～大念佛寺 春夏秋冬～
DVD
大念佛寺 春夏秋冬
DVD
大念佛寺 瑞祥閣

融通声明コンサート

声明と天女の舞を思わせる物語風ダンスショー
声明と歴史あるベルシヤ伝統楽器サントゥール

融通声明研究会

五月二日、三日、七日午前十時三十分～十一時三十分

五月二日の洋舞とは、ミュージック楽器サントゥールは、数千年の歴史を持ちます。悠久のベルシヤを雅でエキゾチックでありながら透明感のある音色を奏でます。今回は、夢のおつげに従い、冒険の旅に出る若者の奮闘記をダンスシーンで綴ります。後半のダンスシーンでは四季折々の妖精達が軽やかに踊ります。
五月三日、七日のベルシヤ伝統

仏教讃歌奉納

融通念佛宗聖歌隊

五月一日 午前十時三十分～十一時三十分
五月六日 午前十時三十分～十一時三十分

今年には開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌にあたり慶讃歌『法のよろこび』を奉納させて頂きます。仏教讃歌、メッセージソングと共に今回のご参詣の皆様と一緒に『ふるさと』を合唱させて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

次に私達、聖歌隊をご指導頂いております声楽家 河田早紀先生（ピアノ伴奏 高木寿美代先生）の独唱がございます。再興大通上人三百回忌奉讃歌『生命燃ゆ』他、堂内の皆様の心の中に語りかけ響

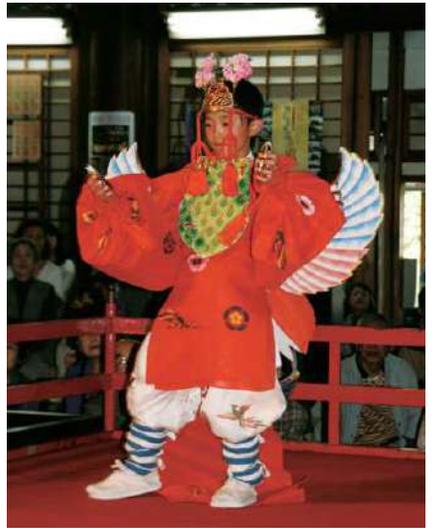


雅のハーモニー

楽融会

五月四日 午前十時三十分～十一時三十分

我々楽役（楽融会）は、総本山や末寺等の行事に於いて、儀式の円滑な進行を促し、人の死を悼み、ご家族やご親族のお心を慰めし、尚且つ、儀式の荘厳を目的とし、鋭意演奏させて頂いております。特筆すべきは、総本山大念佛寺直属の雅楽団体であり、その会員全員が、融通念佛宗在籍の僧侶であるという事です。さて、お陰様で毎回満堂の参詣者に楽しんで頂き、好評を博している演奏会ですが、今回の演奏曲目は、
第一部は【管絃】平調音取・鶏徳・陪臚
第二部は【舞楽】迦陵頻・還城楽です。
万部法要のひとつに、雅な平安の調べに浸って頂き、皆様方のお心が少しでも癒されれば幸甚に存じます。



青年会だより

落語会とぬりえ展示のお知らせ

融通念佛宗青年会 会長 吉村 明山

一人一人 一切人一人 一行 一切行 一切行 一行 是名他力往生、十界一念 融通念佛 億百萬遍 功德圓滿
約九百年前、宗祖良忍上人が阿彌陀様からお念仏と共に授けられた御文です。
私達は世界中の人々と、お互い生かして生かされています。共に唱える念仏を通じてその事に気が付き、感謝し、喜ぶことが出来たなら、この世は感謝と喜びに溢れた素晴らしい世界になるでしょう。青年会では開宗九百年を迎えるにあたり、多くの人々が共に笑い、楽しめる落語会を開催させて頂く



落語会を通じて、少しでも多くの方が、共に喜び合える事を心より祈念いたします。
又、毎年好評を頂いております「ぼさつさまぬりえ」も御遠忌法要期間中、毘沙門堂において展示を行います。
九百年の歴史を、次の世代へと引き継ぐために、青年会ではこれからも研修会をはじめとする様々な活動を通して研鑽を重ねていく所存です。



平成27年 御遠忌法要 日程・時間表

日程 時間	5月1日(金)	5月2日(土)	5月3日(日) 憲法記念日	5月4日(月) みどりの日	5月5日(火) こどもの日	5月6日(水) 振替休日	5月7日(木)
6時30分	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行
9時30分	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏	おつとめ 阿弥陀経 読誦 日課念仏
10時	八島念仏講	安堵念仏講		大念佛寺奉賛会 祈願法要			
10時30分	仏教讃歌奉納	融通声明 コンサート	融通声明 コンサート	雅のハーモニー	世界平和祈願 護摩供養 (本堂北側境内地)	仏教讃歌奉納	融通声明 コンサート
11時							
11時30分	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞
12時	布教	布教	布教	布教	布教	布教	布教
12時40分	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納	郷土芸能奉納
1時	お渡り お稚見 詠讃歌舞 禅門講 諸講元 聖歌隊 万部輿 波御 二十五菩薩練供養 菩薩 伝供 お勤め 供養楽 在家勤行式 二十五菩薩練供養	お渡り お稚見 詠讃歌舞 禅門講 諸講元 万部輿 波御 二十五菩薩練供養 菩薩 伝供 お勤め 供養楽 在家勤行式 二十五菩薩練供養					
3時30分	還御	還御	還御	還御	還御	還御	還御

※各種奉納行事の内容・時間については、変更する場合がございます。

○万部中は、駐車場がございません。公共交通機関をご利用下さい。

お稚見さん募集

たくさんのお参りの方に身守られ、ほとけさまを身近に感じられるすばらしい渡御となることでしょうか。

「菩薩様との記念撮影」も大変貴重な経験となります。是非ご参加ください。

■日程 五月一日〜七日 雨天決行

■費用 お一人 五千円(一日)

※白足袋か白靴下を御用意ください。

申し込み 大念佛寺寺務所まで

電話〇六一六七九一一〇〇二六

※当日の申し込みは午前十一時

まで受け付けております。



勧進のご案内

◎塔婆回向
本堂にて受付

(十時から十五時まで)

○万部中常回向(七日間)五千元

※万部終了後であっても七日間

ご回向致します。

◎当日回向 (一日) 三千元

◎各種勧進

○巻線香(御本専用) 五百円

○本堂正面用口ウソク 二千元

○脇壇用口ウソク 一千元

○本堂大屋根瓦勧進 二千元

◎万部結縁回向

万部輿に納めた万部経に霊名を記し、管長宛下によって永代に渡って回向されます。

伝統あるこの法会に、よきご縁

を結んでいただきたくお勤め申し

上げます。

永代回向料 一霊 一〇万円

申込受付(本堂売店・寺務所)

◎御遠忌写経納経

納経された写経は、延喜殿にて永代奉納させていただきます。

「般若心経」または

「日課浄業」の二種

納経料

一巻 一千元

受付

(本堂売店・寺務所)



万部輿